

教養論叢第17巻第1号掲載論文

『『ベレニス』における個』(上)の正誤表

(i) 正 誤 表

1. P. 132 5行目 : かって→かつて
2. P. 134 20行目 : 命じり→命じて
3. P. 138 13行目 : かって→かつて
4. P. 140 16行目 : Berenice→Bérénice
5. P. 141 下から4行目 : amour→amour

(ii) 修正削除箇所

1. P. 129 2行目 : むしろ形而上学的作品
→むしろカテシズムの香りのする形而上学的作品
2. P. 130 最初のフランス語引用文の日本語訳の行数を原文と同じく
するため以下のように組み変える。

わが若き日々はネロンの宮廷で育てられ、
道を失い、ポーランよ、悪しき手本にまどわされ、
快樂の坂を安易に下ったもの。

3. P. 131 フランス語引用文の日本語訳5行目を以下のように改訳：
あの人への愛にふさわしいものとはなれなかった。

《ses vœux》の訳は、《ses》という所有形容詞が伝統的には
《vœux》を抱く人ではなく、その対象者を示すと考えられてきた
ので「あの人への愛」とされてきた。私はふと論文中のように「あ
の人の願い」とすることも可能ではないかと考えて思いきって発表
してみた。しかしよく再考してみるとやはり無理ではないかとも思
え無難な伝統に従うことにした。

これに関連して同じ頁下から8行目の「ベレニス…」から「…ほか
ならない。」の文を以下のように修正する：

高邁なベレニスにふさわしい人となるには武勇だけでは足りないの
である。

4. P. 133 フランス語訳の下から2行を以下のように部分的修正する:

そして神々がわたしの愛に反対され、
こののち世界に身を捧げよと命じておられることをさとした。

これに関連し同文を引用している P. 134 下から10行目もこれに従う。

5. P. 136 下から6行目から7行目にかけての単文を削除し、以下の引用文を入れる。

Seigneur, tous les tribuns, les consuls, le sénat
Viennent vous demander au nom de tout l'Etat.
.....

Titus : Je vous entends, grands Dieux. Vous voulez rassurer
Ce coeur que vous voyez tout prêt à s'égarer.

(Acte IV scène 8)

陛下。護民官，執政官，元老院の全員が全帝国の名のもとに謁見を願っております。

.....

ティテュス : 大いなる神々よ，わかっております。

道を失いやすきこの心を支えようとしてくださる。

(第4幕第8場)

6. P. 140 15行目「それが…だけで。」削除。
7. P. 145 2行目「存する」の直後に句点「。」を入れ、以下すべて(4行)削除。

(iii) 補 注

ペレニス像の分析は不十分であった。これは「Ⅱ 作者の主張」のところで幾分補う。アンティオキウス像の分析も不十分であった。しかし演出家としてこの作品を研究しているわけではないので作品の重点がティテュスとペレニスにある以上これでよいと私は考える。